

**苫小牧市植苗・美沢地区土地利用計画
[改定版]**

令和 6（2024）年 4 月

植苗・美沢地区の目指す姿

空港アクセスに優れ、豊かな自然に恵まれた、魅力的で大きな発展の可能性を秘めている植苗・美沢地区において、I Rをはじめとした国際リゾート開発の推進等と連動し、さらなる発展に寄与する取組を進め、『空港と自然を活かした子育てしやすいまちづくり』を目指します。

植苗小中学校



地域づくりの目標

【豊かな自然環境の保全】

森林や美々川・ウトナイ湖等の原生的な河川・湖沼など、豊かな自然環境を地域の基本的な資産として認識するとともに、将来にわたり有効な保全を図り、かけがえない自然を後世に残していくことを目標とします。

【自然環境を活かした交流と教育の推進】

自然環境との調和に配慮しながら、空港や道の駅、民間施設など、地域の特色を活かした交流機能の充実を図り、交流の拡大による地域活性化を進めます。

また、地域と子ども達との交流を大切にしながら、教育のさらなる推進を目標とします。

【居住者の生活環境の向上】

快適で安全・安心な住み良い暮らしを実現するため、環境整備や市民生活の利便性向上を図り、花と緑に囲まれた地域づくりを目標とします。

【環境と調和した交通基盤等の整備】

空港からの2次交通（鉄道、バス、タクシー等）の充実など、利便性向上のための交通基盤整備等を図るとともに、ゼロカーボンシティの実現に向けて、環境に配慮した再生可能エネルギーの導入を目標とします。

計画期間

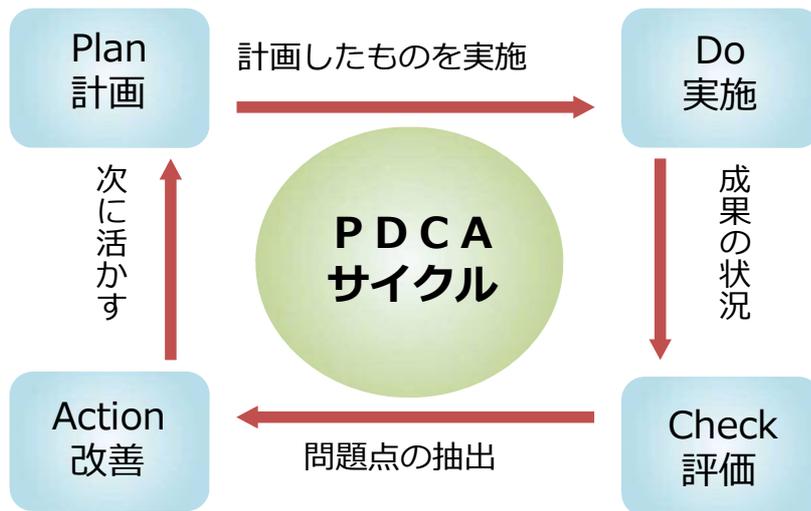
地域ニーズや社会・経済情勢の変化を考慮して、計画期間を10年間（令和6年度～令和15年度）とし、中間年で見直しを行います。

なお、中間年の前後であっても、計画内容に変更が生じた場合は、関係機関及び地域住民と協議のうえ更新を行います。

和暦	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
西暦	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
	計 画 期 間 (1 0 年)									
	前 期 (5 年)									
				見直し	↳	後 期 (5 年)				

進捗管理

毎年度、進捗管理を行います。

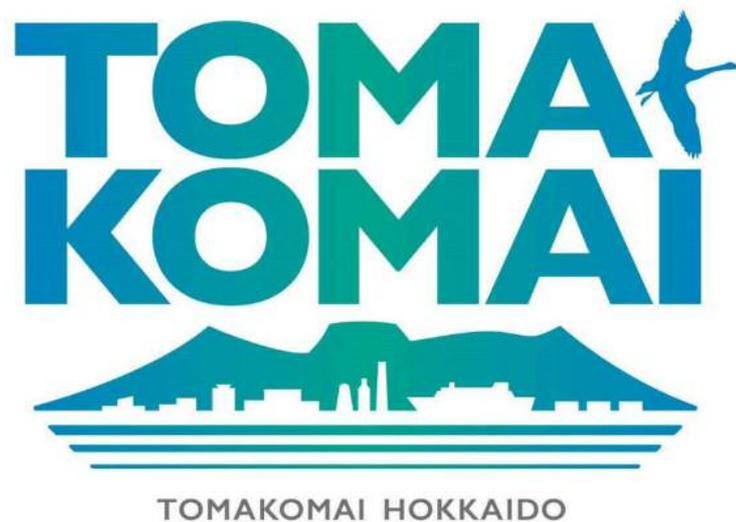


- ・ Plan (計画策定) ⇒ 植苗・美沢地区土地利用計画の策定
- ・ Do (計画の実行) ⇒ 事業主体の行動
- ・ Check (評価) ⇒ 進捗状況の検証
- ・ Action (改善) ⇒ 土地利用計画の修正

●苦小牧市植苗・美沢地区土地利用計画[改定版]

目標	事業・施策	取組内容
1 豊かな自然環境の保全	(1) 多面的機能を発揮する森林施業の実施 ※多面的機能 ⇒ 森林が持つ水源涵養、二酸化炭素吸収、木材生産などの機能	①<造林・育成・伐採など保安林や学校林を含めた適切な森林保全> 苦小牧市森林整備計画に基づき、森林の更新を適切に行い、国や関係団体等と連携を図りながら森林保全に努めます。
	(2) ウトナイ湖周辺における自然環境の保全	②<生物多様性地域戦略の策定> 生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画を策定します。 ③<多様な植生環境の改善や動植物を保護する取組の推進> 生態系ネットワークの保全・形成やラムサール条約登録湿地であるウトナイ湖周辺の自然環境保全等に関する指導要綱の策定について検討します。 ④<美々川自然再生事業の促進> 北海道に対し、美々川自然再生事業の促進やウトナイ湖の水深改善について継続的に要望するなど、ウトナイ湖周辺の保全に努めます。
2 自然環境を活かした交流と教育の推進	(3) 国際リゾート構想の推進	⑤<統合型リゾート（I R）誘致> ⑥<長期滞在型宿泊施設等の整備推進> 国や北海道の動きを注視するとともに情報収集に努め、I R誘致等に取り組めます。
	(4) 地域と共にある学校づくり	⑦<義務教育学校の実践> 植苗小中学校は、市内初の義務教育学校として、先進的な小中一貫教育を実践しつつ、小規模校のメリットを活かし、一人ひとりきめ細やかな指導に取り組めます。 ⑧<コミュニティスクールなど特色ある学校づくり> 豊かな自然に囲まれた環境を活かし、地域と学校が連携した特色ある学校づくりの推進に努めます。 ⑨<植苗小中学校の大規模改修に伴う教育環境の整備> 老朽化が進んだ校舎及び屋内運動場について、照明やバリアフリー設備等の内部設備と外壁等の改修を実施することにより、児童・生徒等の安全確保及び教育環境の向上を図ります。（大規模改修工事（予定）：令和6～7年度）
	(5) 遊歩道ネットワークの維持管理及び情報発信	⑩<道の駅、ウトナイ湖野生鳥獣保護センター、ネイチャーセンターをつなぐ遊歩道ネットワークの適正な維持管理及びさらなる利用促進のための情報発信> 遊歩道を安全に利用できるよう維持・管理を行うとともに、道の駅やウトナイ湖野生鳥獣保護センター等と連携を図りながら、様々な媒体を活用し、利用者に対する情報発信に努めます。
	(6) 自然を活かした観光づくり	⑪<道の駅を核とした苦小牧の魅力発信> ⑫<植苗駅前通り桜並木の観光スポット化> ⑬<空港や民間施設等と連携した観光需要活性化の推進> 市ホームページやSNS、パンフレットなどを活用し、道内外に植苗・美沢地区の魅力を発信するとともに、空港や民間施設等と連携した観光需要活性化の推進に取り組めます。

目標	事業・施策	取組内容
3 居住者の生活環境の向上	(7) 地域防災・防犯の推進	<p>⑭<植苗町内会連合会、植苗自警団などとの連携></p> <p>⑮<苫小牧市地域防災計画・苫小牧市総合防犯計画・苫小牧市空家等対策計画の遂行></p> <p>各計画の遂行とともに、防犯対策として、通学路や不特定多数の人が集まる公園などに、市民のプライバシーに配慮しながら、犯罪抑止のための防犯カメラの設置を進めます。</p>
	(8) ICT（情報通信技術）の推進	<p>⑯<地域BWAを活用した通信インフラ整備></p> <p>地域BWAを活用して市全域の高速通信化を図り、新たな形の行政サービスを提供します。（ブロードバンド未整備地域解消、公共施設のフリーWi-Fi整備、単身高齢者見守りサービス導入等）</p> <p>※BWA⇒苫小牧地区限定の無線サービス</p> <p>⑰<テレビ共同受信施設の光ケーブル化の実施></p> <p>現在使用している同軸ケーブルを光ケーブルに変更し、安定的なテレビの視聴を可能とします。</p> <p>（実施調査・設計（予定）：令和6年度、工事（予定）：令和7年度～）</p> <p>⑱<IRUの利用促進></p> <p>IRU加入者増加に取組むとともに、公設光ファイバーケーブル及び関連設備の民間移行を進め、既存法人の通信環境改善など、さらなる地域サービスの向上を図ります。</p> <p>※IRU⇒自治体が保有しているインターネット用の光回線を民間事業者が利用し、家庭用として提供</p>
	(9) 地域公共交通の維持、充実	<p>⑲<コミュニティバス（とこバス）の利用促進及びアンケート調査の実施></p> <p>パンフレット等による周知を図るとともに、アンケート調査を通じて、停留所の場所等を検討します。</p> <p>⑳<通勤・通学の利便性向上に向けたニーズ調査の実施></p> <p>現状や課題、要望等を把握するためニーズ調査を実施します。</p>
	(10) 地域と連携した緑化推進	<p>㉑<地域と連携した花植えや植樹などの緑化活動の推進></p> <p>緑化の取組に対する支援のため、町内会等による植樹イベントや花壇整備に対して、花苗・資材の現物支給や植樹帯への花の植付に対する助成などにより、緑化活動を推進します。</p> <p>㉒<道営住宅桜並木の適正管理></p> <p>道営住宅植苗中央団地敷地内の沿道にある桜木の維持管理を行います。</p>
4 環境と交通調和基盤等たの整備	(11) 先端科学産業の推進	<p>㉓<新たな産業展開に対応した土地利用の推進及び移住促進></p> <p>国や北海道、関係自治体等と連携し、今後の企業進出と人口増加を見据えた土地利用を推進するとともに、良好な住環境をPRし、移住促進を図ります。</p>
	(12) 空港アクセスの利便性向上	<p>㉔<JR新千歳空港駅スルー化に向けた協議・要望></p> <p>㉕<2次交通（鉄道、バス、タクシー等）の輸送力強化></p> <p>国及び北海道に対する要望を継続しつつ、北海道やJR北海道など関係機関と緊密に連携を図り、北海道内広域による必要性の効果などについて整理しながら、早期実現の機運醸成に向けた働きかけを行います。</p>
	(13) 再生可能エネルギーの導入	<p>㉖<道の駅、植苗小中学校、植苗ファミリーセンターへの太陽光パネルの設置></p> <p>ゼロカーボンシティの実現に向け、再生可能エネルギーの導入を進めます。</p> <p>（道の駅：令和6年3月設置、6月運用開始（予定））</p>



苫小牧市総合政策部まちづくり推進室空港政策課